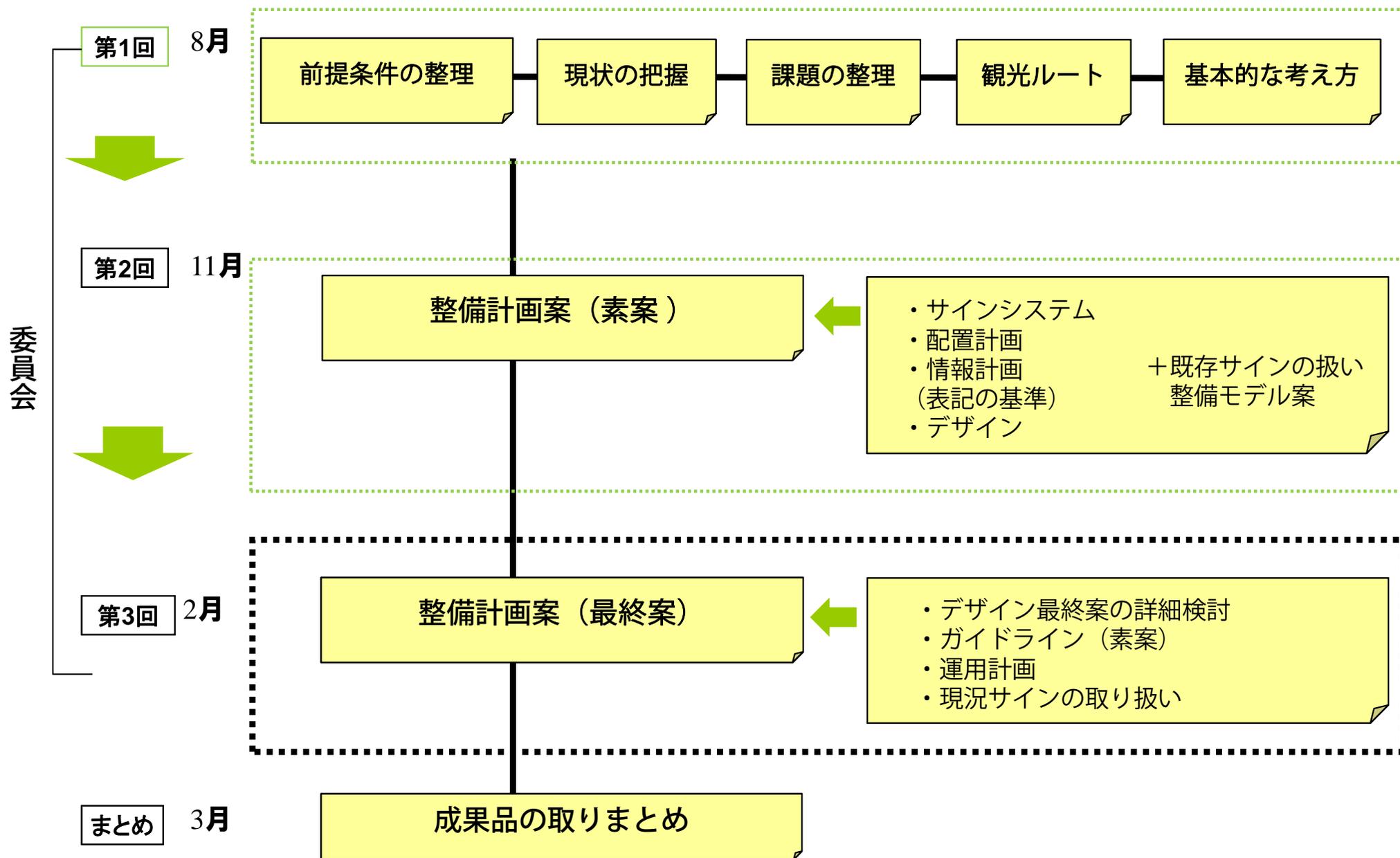


第3回 観光案内サイン等整備計画策定委員会

検討資料 2016.02.05.

スケジュール



マネジメントシステム

サイン整備計画の運用

観光案内サインの整備を実行していくにあたり、単なる“モノ”の整備にとどまることなく、宇治市の観光振興にとって、真に実効性のあるものとしていくために考えておくべきことは？

整備計画



実施計画



整備の実施



整備後の維持・管理

事業実施時

計画・方針との整合性； 計画時に目指した方向性とズレはないか
効果の検証 ; ニーズに対応した整備となっているか

検証の手法は？

維持・管理

“モノ”のメンテナンスと“情報”のメンテナンス
メンテナンスの台帳 ; 誰が、何時、整備したのか
誰が管理しているのか

だれが、どのように管理していくのか？

運用計画

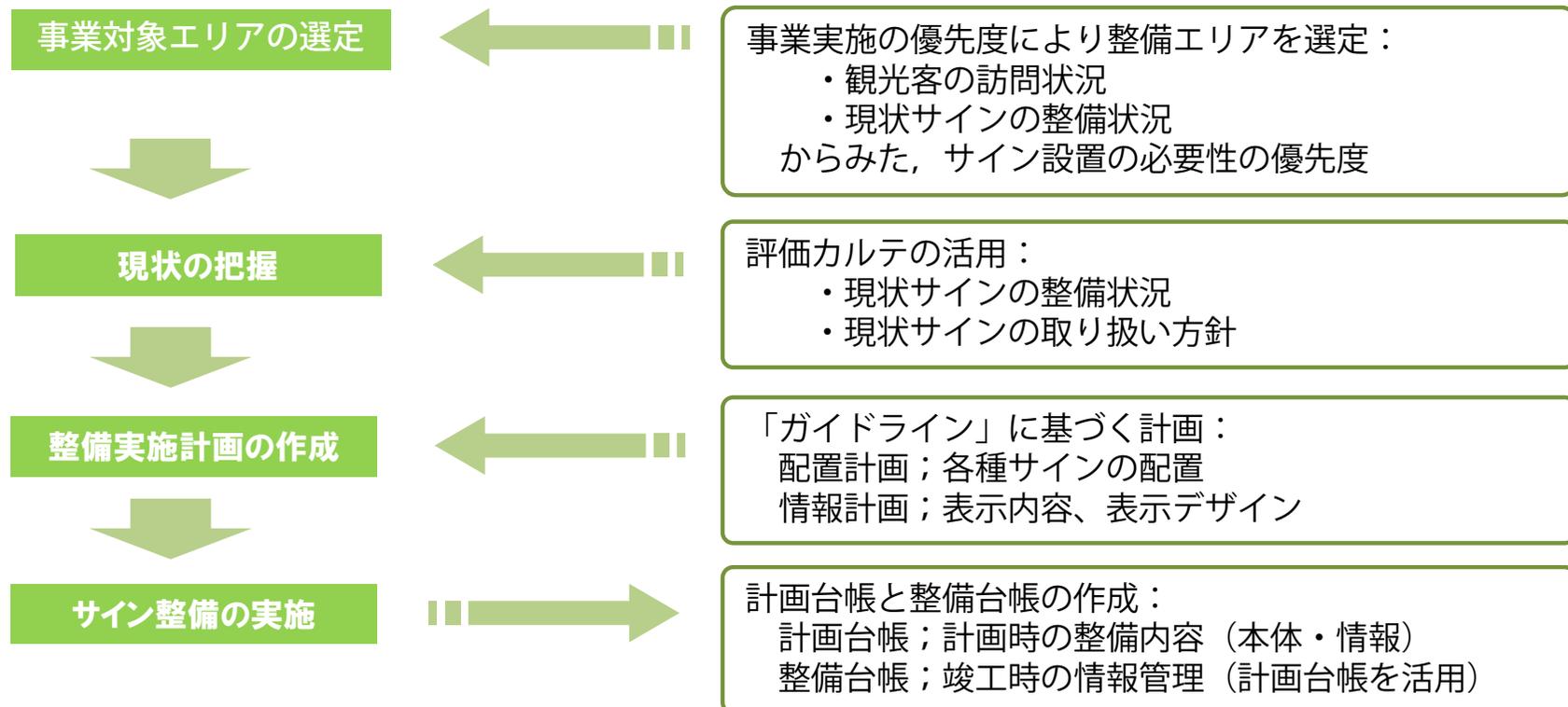
1) ガイドラインの運用

●ガイドラインの適用について

「ガイドライン」は宇治市商工観光課が行う観光案内標識の整備の考え方を示したものであり、今後宇治市内において展開される公共サインの整備についても、その適用が望まれる。また、民間事業者についても「ガイドライン」に示された考え方にもとづいた整備が推奨される。

宇治市ではすでに景観条例が定められており、サインに関しても一定のルールが示されている。「ガイドライン」はこれと整合を図っていくとともに、厳格なルールとしてデザインを規制していくものではなく、関係者間の合意形成を図る際の指標として運用されることが望ましい。

●ガイドラインを活用した整備の手順を以下に示す



運用計画

2) 検証と振り返り

●検証

サイン整備においては事業実施時及び整備後の検証を行う。

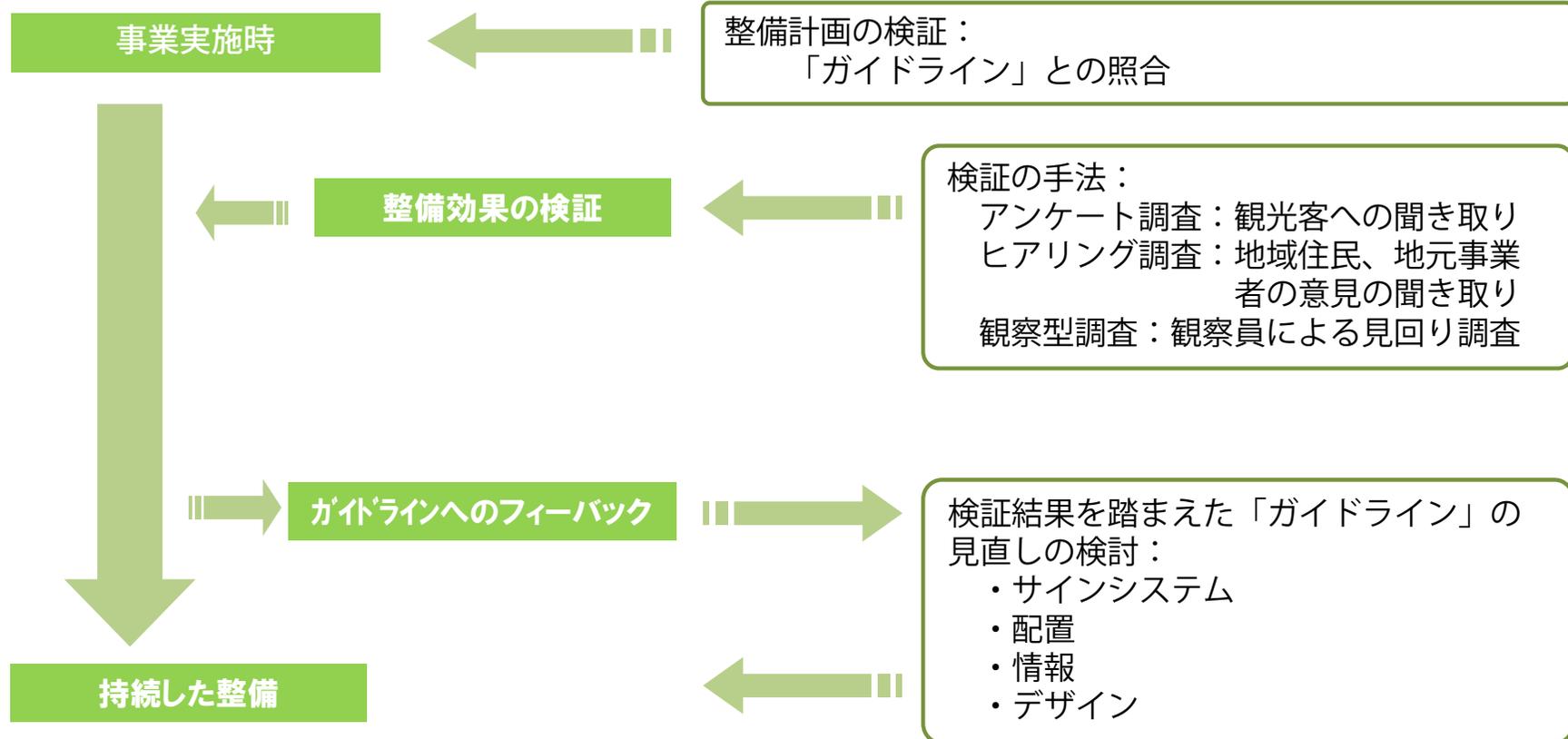
事業実施時；実施計画と「ガイドライン」の照合、

整備後；整備効果の検証

●振り返り

検証により整備や整備効果に問題がある場合は、「ガイドライン」の見直しや改修の検討を行う。

●検証と振り返りの考え方



運用計画

2) サインのメンテナンス

●目的

- ・観光客（利用者）にとって真に役立つサインであり続ける。
- ・まちの景観価値を下げない。上昇させることを目指す。



観光客の満足度の向上 ⇒ 来訪者の増加 ⇒ 地域価値の向上 ⇒ 地元住民の満足度の向上

●役割

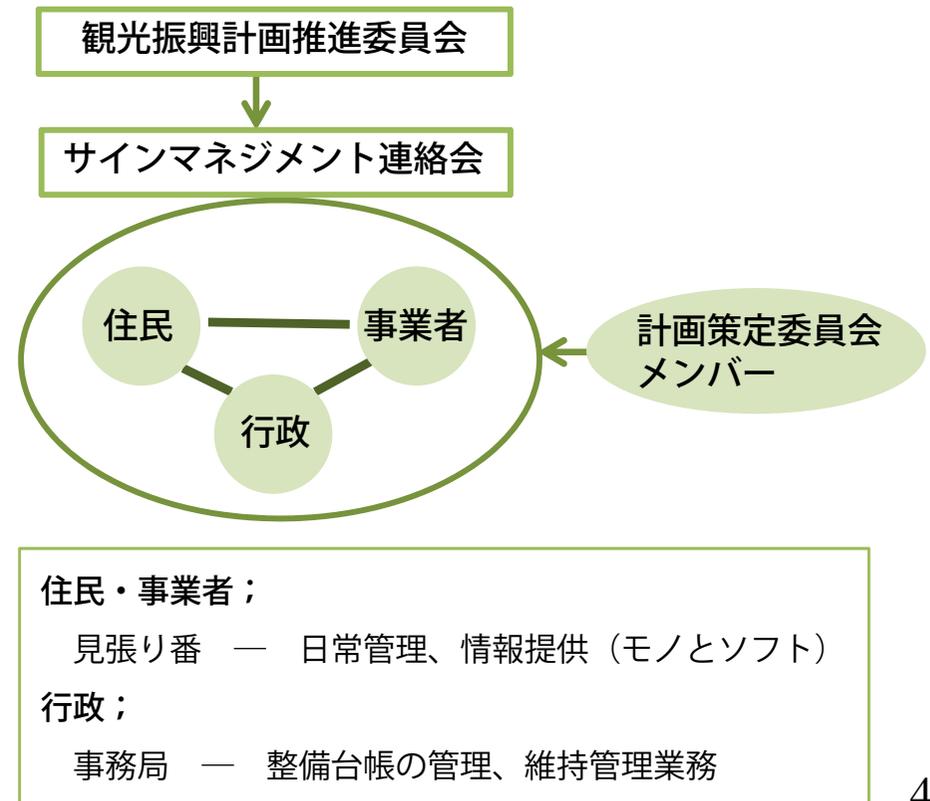
- ・破損、老朽化への対応
- ・情報の更新、情報ニーズの変化への対応
- ・日常的な清掃管理



キレイで役立つサインであるために

●体制

- ・観光案内サインの維持管理をスムーズに行っていくためには、行政・地元観光事業者・地域住民の3者の連携が必要となる。
- ・行政任せではなく、事業者、住民が積極的に参画できる組織が求められる。
- ・「ガイドライン」の見直しが生じるような場合等、3者に加え計画策定委員会のメンバーも適宜参加し、協議していくものとする。



參考資料

計画台帳と整備台帳の例（京都市観光案内標識）

●計画台帳

観光案内標識計画台帳				管理 No. 案5
管理土木事務所名	西部土木事務所			標識種別
位置	路線名			案内サイン 630型 AA
	中書島川端線(2)			設置個所
				京都市伏見区東柳町
表示高	m	車道端よりのクリアランス	m	現況写真
標識歴	標識板	支柱		
平成 年 月				
平成 年 月				
平成 年 月				
板面記載事項				
表面		裏面		
長建寺 →		← 長建寺		
↑ 大手筋通		↑ 京阪(中書島駅)		
十石舟乗船場 →		← 十石舟乗船場		

●整備台帳

観光案内標識整備台帳				管理 No. 案5
管理土木事務所名	西部土木事務所			標識種別
位置	路線名			案内サイン 630型 AA
	中書島川端線(2)			設置個所
				京都市伏見区東柳町
表示高	m	車道端よりのクリアランス	m	現況写真
標識歴	標識板	支柱		
平成 年 月				
平成 年 月				
平成 年 月				
板面記載事項				
表面		裏面		
位置図				

■京都市観光案内標識での台帳の例

記載事項；

- ・管轄土木事務所・サインの種別・場所の情報・改修、補修の履歴・表示内容

■宇治市観光案内標識の台帳案

記載事項

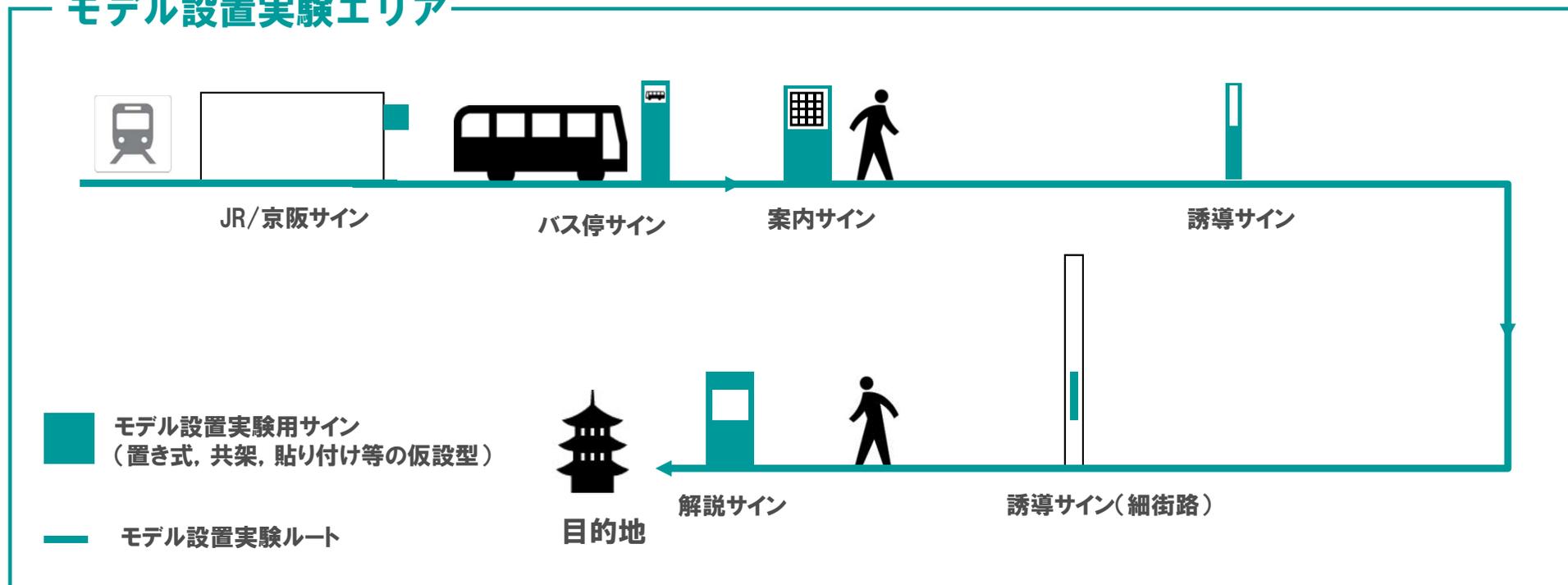
- ・設置者・管理者・関連部局・管轄土木事務所・サインの種別・場所の情報・改修、補修の履歴・表示内容

検証の手法案（整備前）

●モデル設置実験の例

- JRや京阪、バス停を起点とし、周辺の著名地点（目的地）までの案内、誘導、記名サインを仮設型で設置する。
- 利用者に実際に歩いてもらい、サインの種類、位置、情報内容、大きさなどの有効性や課題を抽出する。

モデル設置実験エリア



仮設型サインの参考事例

四条交通社会実験（2007）



・案内, 説明サイン



・案内, 説明サイン



・通り記名サイン



・バス停サイン



・アンケート

*モデル設置実験においてはデザイン性の検証も考慮する

検証の手法案（整備後）

●アンケート型調査

- ・宇治市の観光施設や集客施設の近辺において、基本的に観光客を対象に聞き取り調査を行う。
- ・調査員によるヒアリング調査とする。
- ・目的地までスムーズに到達できたか、欲しい情報、サインの有効性などについて調査を行う。
- ・データ数は日本人50件、外国人50件程度（可能な場合はそれ以上とする）

●観察型調査

- ・公共交通の起点から、あらかじめ想定した目的地を目指して調査員が歩くことで、設置されたサインについて現地で感じた問題点や要望を調査シートに記入していく。
- ・調査員は手元マップやスマートフォン、タブレット端末などを携帯して歩き、実際の観光客に近い形での体験とする。
- ・調査員の構成としては、行政＋専門家に加え観光事業者や地元関係者、市民有志や留学生などとする。
*外国人メンバーは英語圏およびその他の語学圏から最低各一人の参加とする。
- ・調査項目の例；
整備する側と利用する側の双方の視点から検証していく。

	チェック項目				
サインの種類	配置 (景観・視認性)	表示内容 (情報内容, 情報量)	文字・ピクトの大きさ	デザイン	その他